

園だより 6月

わが子よ、父の諭しに聞き従え。母の教えをおろそかにするな。(箴言1章8節)

春から初夏に咲く野の花、新緑の柔らかな野の草、時にそんなうれしい命のプレゼントを子どもたちの小さな手から渡される朝のひとつ、「子どもたちの命」を預かせて頂くことへの気持ちの引き締まる思いと共に、今日もまた輝く命と向き合い過ごすことが出来る喜びを感じながら、一人ひとりの手を取り大切に過ごしています。

園生活への不安や戸惑いが感じられていた子どもたちも、それぞれのペースで少しずつ心を動かし遊ぶ姿にゆとりが感じられるようになりました。保育者たちはそのような変化を十分に捉えながら、個々の様子、それぞれのペース、それぞれの遊びに寄り添い、2か月余りを大事に過ごしてきました。そして、5月第三土曜日には、東京YMCA全体保育研修会で保育者全員が子どもたちとの日々をより豊かにするための学びの時を持たせて頂きました。今年度は、和泉短期大学教授 松浦浩樹先生に「遊びの中の学びを見つめる保育者の眼差し」の題目で、子どもたちにとっていかに「遊び」が大切であるか、その「自らの遊び」を通しどれほどの「学び」が成されて行くか、そしてそこに寄り添う保育者はその子どもたちの遊びの何を捉えどのような眼差しを送りながら共に過ごす事が大切であるかを学びました。より充実した子どもたちの園生活のためにどのような環境を整えることができるか、松浦先生から語られるお話を聴きながら、私たち保育者は日々の保育を振り返り、見直しより深く真の保育への想いを巡らしました。そして様々な保育方法は有るでしょうが、江東YMCA幼稚園がもっとも大切に思いながら、しごく当たり前に幼稚園の日々の中「子どもたちが遊び込み、園生活での経験を通して育む成長」のため、想いを注ぐ保育の重要性を改めて確信し、その保育に携わっていることへの喜びを感じる一日となりました。

子どもたち一人ひとりの「自らが備えている伸びる力」に保育者の心を注ぎ、きとお日様の輝きが増すごとに、益々活発になるであろう子どもたちの6月の日々も大切に過ごして参りたいと願います。楽しい日々も混沌とする日々も育みの時であること、そしてどちらの大切な日々も保護者の皆様と共に見守って行けますことを願います。よろしく願いいたします。

園長 駿河 幸子